

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（2・3年生）

教科	国語	科目	現代文A	単位数	3
学年	3	学科	A, G, W	担当者	菊永、山本
教科書	現代文A（三省堂）		副教材	「現代の語彙力向上の壺」、「常用漢字オールクリア」 「常用漢字オールクリア別冊徹底トレーニングノート」	

1 学習の目標…この科目を学んでどんな力が身につくのか

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2 学習のポイント

- ・例えば現代文の教科書本文や新聞のコラム欄など短いもので良いので文章を最後まで根気強く読みましょう。
- ・副教材を有効活用して就職試験・入学試験合格に生かしましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 定期考査	○	○		課題、中間、期末、学年末考査
2 提出物	○	○	○	授業ワークシート、各種課題
3 授業態度		○	○	発表、音読、ワークシートへの取組等
4				
5				
6				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

現代文の学習は、就職試験や入学試験対策に直結します。
特に、敬語の学習は面接試験対策に有効です。

5 学習計画

学期	月	学習單元	学習の到達目標
1 学期	4	随想「求めるものに応じてくれる」 日本語エクササイズ③「敬語」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の内容に着目し、筆者の主張を読み取る。 ・敬語の種類を理解し、敬語を適切に使うことができる。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	5	日本語エクササイズ④「ことわざ・慣用句」 日本語エクササイズ⑤「わかりやすい文章」 「現代の語彙力向上の壺」	・問題演習を通して国語常識を身に付ける。 ・就職試験や入学試験での履歴書や志願書、作文や小論文に生かす。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	6	評論「人はなぜ働くのか」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の内容に着目し、筆者の主張を読み取る。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	7	日本語エクササイズ①「対義語・類義語」 日本語エクササイズ②「四字熟語」 「現代の語彙力向上の壺」	・問題演習を通して国語常識を身に付ける。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
2 学期	8		
	9	小説「アマガエル」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の調子などを味わいながら音読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠に説明したりする。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	10	評論「眼差しを交わす喜び」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の内容に着目し、筆者の主張を読み取る。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	11	小説「山月記」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の調子などを味わいながら音読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠に説明したりする。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
	12	随想「最初のペンギン」 「現代の語彙力向上の壺」	・文章の内容に着目し、筆者の主張を読み取る。 ・問題演習を通して国語常識を身に付ける。
3 学期	1	1年間の復習	・1年間で学んだ現代文学習の要点をつかみ、「1 学習の目標」を達成する。
	2		
	3		

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇校舎 シラバス

教科名	地歴・公民	科目	日本史A	単位数	2
学年	3	学科	A,G,W	担当者	佐伯 彰彦
教科書	高等学校改訂版日本史A 第一学習社		副教材	配布プリント	

1 学習の目標…この科目を学んでどんな力が身につくのか

- ① 私たちが今生きている世界がどのように作られてきたのか、世界で起こる出来事をどう捉えればいいのか、基礎的な知識を身に付け、それをもとに考えることができる。
- ② 資料などの読み取りをとおして、情報を表に見える部分だけで判断せずに、様々な見方でよく調べ、それをもとに自分の考えを述べることができる。
- ③ 一人一人が大切にされる世の中を自分たちで作っていくという意識のもと、どのような選択をして生きていけばよいか考えることができる。

2 学習のポイント

- ① 用語を丸暗記して覚えるのではなく、結果的に自然に覚えてしまうくらい教材を読み込んでください。
- ② ものごとの全体像を捉えて、自分の言葉で説明することで、歴史をどのように学べばいいのかを身に付けていきましょう。
- ③ 一つの答えだけで満足せず、めんどくさがらず、当たり前だと思っていることも疑いながら、考えることを続けましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 定期考査	○	○	○	丸暗記した知識をたた答える問題ではなく、応用できる形で身に付けているかどうかを問う問題を中心に出题します。
2 提出物	○	○	○	提出したかどうかではなく、授業にどのように取り組んで、どのような知識や見方・考え方を身に付けたかを重視します。
観点別割合	40 %	40 %	20 %	

4 担当者からのメッセージ

暗記が苦手だから歴史が嫌いという人がいますが、まずは歴史の勉強は暗記をするものという考え方をやめてみてください。たくさんものを知っていることはとても大事ですが、丸暗記するだけでは意味はありません。たくさんものを知るのには、それをもとにして自分なりに考えてみるためです。そのために、ものの見方と知識を結び付けて身に付けていってください。そして、日本史の学習を就職・進学試験や定期考査のためで終わらせず、世界のこれまでとこれから、そして自分のこれまでとこれからをしっかりと考えてみる機会にしてください。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	第1部 私たちの時代 第2部 近現代の日本と世界 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動 1 せまってくる外国船 2 ちからを蓄える庶民 3 近代思想のいぶき 4 揺らぐ幕藩体制	ねらい：江戸時代の日本の外国との関係について、鎖国時の外国船の接近に関して、また日本の近代思想に関して理解する。 ①この内容に関連する知識・技能を、活用できる形で身に付けている。【知識・技能】 ②身に付けた知識・技能をもとに、この内容について学ぶことで見出された見方・考え方を活かして、設定した主題について思考したり判断したり表現したりすることができる。【思考・判断・表現】 ③上記の①②についてどのくらい学べているかを自分で把握し、自分の学び方のよい点を伸ばしたり悪い点を改善したりするなど、の見直しを行い、さらに自分で選んだ学び方に粘り強く取り組むことで、上記の2点の学びが深まっている。【主体的に学習に取り組む態度】 以下についても同様に、各ねらいに対して上記①②③にもとづいて評価するものとする。
	5	第2節 開国と幕末の動乱 1 黒船がやってきた 2 志士たちの時代 3 手を結ぶ薩長 4 近代との出会い 5 江戸幕府が終わり新政府へ	開国した日本と欧米列強の関係について、ペリー来航に関して、明治新政府への移行に関して理解する。
	6	第3節 近代国家の形成 1 江戸が東京になった 2 天皇の軍隊がつくられた 3 スローガンは「富国強兵」 4 欧米文化がはいつてきた 5 日本の国境が定まった 6 爆発する農民や士族の不満 7 国会開設が決まった 8 地主制が進行した 9 立憲政治がはじまった 10 国会がはじめて開かれた	新政府の特徴や制度を資料をもとに理解する。また日本の近代化に関して、日本の国会開設に関して理解する。
	7	第4節 国際関係の推移と近代産業の発展	日清、日露戦争の特徴について、またその背景と結果について理解する。
	8	1 欧米と肩を並べる国をめざして 2 清国との対立が深まった 3 藩閥と政党が接近した 4 ロシアとの戦争がおこった 5 アジアへの勢力拡大がはじまる	
	9	6 国民の生活が圧迫された 7 綿糸と生糸が支えた産業革命 8 欧米の資本主義に仲間入りした 9 貧富の差が広がった 10 国家主義が台頭する 11 教育が進展した 12 明治の文化が花開いた	
	10	第2章 両大戦をめぐる国際情勢 第1節 第一次世界大戦と日本 1 民衆が政治を動かし始めた 2 最初の世界大戦に日本も参戦した 3 成金の時代がやってきた 4 朝鮮・中国の民衆が立ち上がった 5 日本は欧米に歩調をあわせた 6 「平民宰相」が登場した 7 抑圧からの解放をもとめて 8 新しい文化とモダンな都市が生まれた 9 学問と芸術に新風が吹く	
	11		第一次世界大戦の経緯・特徴について、日本の大戦参戦の背景と経過について、大戦時の日本の好景気について、大戦後の朝鮮・中国の民族運動について、大戦後の日本の国際関係について、日本の政党政治について理解する。
	12	第2節 第二次世界大戦と日本 1 恐慌の風吹きあれる 2 日本の外交が行きづまる 3 軍部の暴走がはじまった 4 中国との長い戦いがはじまった 5 戦争の影が文化におよぶ 6 すべてが戦争に協力させられた 7 アメリカとの戦争がはじまった 8 戦争が拡大する 9 アジア・太平洋の諸民族にかかわった 10 生活も戦争に染まった 11 戦争が終わった	第二次世界大戦の経緯・特徴について、世界恐慌の中の日本について、恐慌下における軍部の台頭について、太平洋戦争の背景について、大東亜共栄圏について、終戦までの流れについて理解する。
2 学期			

3 学 期	1	第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発 1 占領軍がやってきた 2 日本が生まれかわる 3 新しい国のしくみ 4 飢えとのたたかい 5 飢えのなかでも解放感があつた 6 民主化から経済復興へ 7 復興への転機到来 8 複雑な環境のなかでの独立	第二次世界大戦後の日本と世界の動きについて、占領下での政策と民主化への流れについて、日本国憲法について、冷戦を背景とした占領政策の転換について、朝鮮戦争とその影響について、独立と安保条約について理解する。
	2	第2節 独立後の政治と経済の発展 1 平和への願いが叫ばれた 2 保守と革新の正面衝突 3 奇跡の経済成長がはじまった 4 奇跡の経済成長の影 5 あらたな戦争にまきこまれた 6 豊かさと中流意識	復興から高度経済成長期の日本の動きについて、独立後の日本の動きについて、安保闘争について、高度経済成長の流れについて理解する。
	3	第3節 現代の日本と世界 1 2つのショック 2 経済大国が誕生した 3 消費はファッションになった 4 バブルはこうしてふくらんだ 5 大きな歴史の転換をむかえた 6 政局と経済が混迷する 7 これからの日本について考えよう 8 時代の転換点に立って	現代の日本と諸外国との関係について、また経済大国となる背景について理解し、平和で民主的な世の中とは何かを各自が考え、日本人として何ができるのかについて自分の意見を述べる。

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	数学	科目	総合数学演習	単位数	2
学年	3	学科	W	担当者	山下
教科書			副教材	ポイントノート数学 I・A(数研出版)	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 筋道を立てて物事を考える力を鍛えることができます。
- 数学の良さが分かり、数学を活用しようとする態度や粘り強く考えて問題を解決しようとする態度が身につきます。
- 就職試験など、受験に必要な知識と計算力が身につきます。

2 学習のポイント

- 『数学』を『数楽』と捉え、楽しさや良さを体験していきましょう。
- 分からない部分は決してそのままにせず、必ず質問して解決していきましょう。分かったと非常に楽しい教科です。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○	○		学習到達度合
2 提出物	○		○	提出習慣割合
3 授業態度	○	○	○	授業状況観察
4 出席状況			○	授業参加意欲
5				
6 資格・検定				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

- 教科書、ノート、ファイル、問題集を準備して真剣に取り組み、理解を深めましょう。
- 課題や提出物をきちんと出しましょう。積極的、継続的に学習しましょう。
- 正しい姿勢で椅子に座り、授業内容に関する質問を積極的に行い、満足感のある授業にしましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	【数学Ⅰ】数と式 ○計算の基本 ○単項式と多項式 ○多項式の加法と減法、乗法	○正・負の数や分数などの四則演算について理解を深める。 ○単項式の次数、係数を求めることができる。 ○多項式の次数、定数項を求めることができる。
	5	○展開の公式、因数分解 ○根号を含む式の計算、実数 ○1次方程式、1次不等式、不等式の解 2次関数	○式の展開・因数分解の公式の理解を深める。 ○平方根の意味を理解し、計算法則に従って計算することができる。 ○簡単な1次方程式を解くことができる。 ○不等式の意味や性質について理解する。
	6	○関数、1次関数のグラフ ○2次関数のグラフ ○2次関数の最大値、最小値 ○グラフと2次方程式、2次不等式	○不等式の解を数直線上に表すことができる。 ○一般形で表された2次関数の式を平方完成することができる。 ○関数の値の変化を考察し、最大値と最小値を求めることができる。 ○因数分解や解の公式を利用して、2次方程式を解く。
	7	図形と計量 ○直角三角形、三角比、三角比の利用 ○三角比の相互関係 ○鈍角の三角比	○2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く。 ○三平方の定理を使って、直角三角形の辺の長さを求める。 ○三角比の相互関係を用いて、三角比の値を求めることができる。 ○鈍角まで拡張した三角比の意義を理解する。
2 学期	8		
	9	○正弦定理、余弦定理 ○三角形の面積 集合と命題 ○集合、命題と集合	○正弦定理、余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解す ○三角形の面積の公式を用いて、面積を求める。 ○集合に関する基本的な用語・記号を理解する。 ○命題の必要条件・十分条件・逆・裏・対偶などを集合と
	10	○必要条件と十分条件 【数学A】場合の数と確率 ○集合、集合の要素の個数	関連付けて理解する。 ○集合及び集合の要素の個数の基本的な記号を理解する。
	11	整数の性質 ○約数と倍数 ○ユークリッドの互除法 ○方程式を満たす整数	○約数、倍数、素数、素因数分解など、整数に関する基本事項を理解する。 ○2つの自然数の最大公約数と最小公倍数を求めることができ ○互除法を用いて、2つの自然数の最大公約数を求めることがで ○1次不定方程式を解くことができるようになる。
	12	○2進法 ○分数と小数	○10進法と2進法を理解し、変換ができるようになる。 ○有理数、有限小数、循環小数の意味を理解する。 ○有限小数や循環小数を分数に変換できるようになる。 ○整数の性質に関する基本問題が解けるようになる。
3 学期	1	【数学Ⅰ・A】 ○既習事項の確認	○数学Ⅰ・Aの範囲における既習事項を確認し、社会生活におけ 基本的な知識と計算力を身に付ける。
	2		
	3		

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（2・3年生）

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	2, 3	学科	2A, 2G, 3W	担当者	上島・上野
教科書	東京書籍「改訂 新編生物基礎」		副教材	なし	

1 学習の目標・・・この科目を学んでどんな力が身につくのか

- 体内の化学反応や代謝、遺伝子による姿かたちの変化、環境と生態系のかかわりがわかります
- 実験を通して、上記の知識を自分の目で確かめたり、ものごとを順序立てて考える力を養います
- 身近な事象・現象（例：花火が様々な色になる理由）への興味・関心を高めることができます

2 学習のポイント

- 写真や動画を扱い「これは何？」と尋ねます。どんな答えも否定しません。意見や考えを教えてください
- 火を扱った実験や解剖をします。「聞くときは聞く」「取り組むときは取り組む」とメリハリをつけてください

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 定期考査	○	○		課題考査・中間考査・期末考査
2 提出物	○		○	授業・実験ワークシートの記入
3 授業態度		○	○	自分の意見を伝えられたか
4 実験	○	○	○	考察を深めながら実験できたか
5 資格・検定	○	○	○	理科関連検定（生物分類技能検定など）
観点別割合	50 %	30 %	20 %	

4 担当者からのメッセージ

皆さん（ヒト）を含めた生物について、科人より深く学んでいきます。目に見えない構造や変化もありますが、写真や動画を用いてわかりやすく説明したいと思います。実験も多く実施して、経験とともに理解を深めたいと思います。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	1編 生物の特徴 ・1章 多様性と共通性 1 多様性と共通性とは	・多様性はさまざまな生育環境に適応した結果であることを理解できる
	5	2 細胞にみられる多様性と共通性 ・2章 生命活動とエネルギー 1 生命活動を支える代謝	・生物は細胞からできており、共通性が見られることを理解できる ・細胞の姿形・はたらきの多様性と、基本的な構造の共通性に気づく ・細胞内で代謝が生じ、エネルギーの出入りや変換が伴うことを理解できる
	6	2 代謝を進める酵素 3 生体内のエネルギー変換	・代謝には酵素が関与していることに気づき、酵素の性質を理解できる ・葉緑体やミトコンドリアは他原核細胞と共生してできたことを理解できる
	7	4 葉緑体とミトコンドリアの起源	・上記により、光合成や呼吸といった効率の良い代謝のしくみを手に入れたことを理解できる
2 学期	8		
	9	2編 遺伝子とのはたらき ・1章 生物と遺伝子 ・2章 遺伝情報の分配	・DNAという物質が生き物の特徴や性質を決定する情報を担っており、親から子へと受け継がれる遺伝子であることを理解できる ・DNA・遺伝子・染色体・ゲノムという用語の違いを理解できる
	10	・3章 遺伝情報とタンパク質合成	・転写や翻訳といったタンパク質合成のしくみを理解できる
	11	3編 生物の体内環境の維持 ・1章 体内環境の維持	・体内環境は一定の状態に保たれていることを理解できる
	12	・2章 体内環境を保つしくみ ・3章 体内環境を守るしくみ	・自律神経が拮抗的にはたらき、微妙な調節をしていることを理解できる ・病原体などの体内への侵入を防ぐしくみや白血球による食作用によって病原体から身を守る自然免疫というしくみがあることを理解できる
3 学期	1	4編 生物の多様性と生態系 ・1章 植生の多様性と遷移	・生物は、非生物的環境と相互に影響を及ぼしあい、生態系を形成していることを理解できる
	2	・2章 バイオームとその分布	・バイオームは、年間の平均気温と年降水量によって、さらにいくつかのバイオームに区分されることを理解できる
	3	・3章 生態系とその保全	・エネルギーの移動とは異なり、炭素や窒素などは生物の活動によって形を変えながら、生態系の中を循環していることを理解できる

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	保健体育	科 目	体育	単位数	3
学 年	3	学 科	A, G, W	担当者	有働 貴行、木村 恭兵、本田 裕人
教科書	「最新高等保健体育」		副教材	なし	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- (1) 運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。
- (2) 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。
- (3) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する。
- (4) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (5) 公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる。
- (6) 健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 学習のポイント

- 体育では、体を動かすことが一番。まず授業に出席することを大切にしてください。
- 授業では、安心・安全に活動することが大切です。活動する道具の準備や片付けを率先して行ってください。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	学びに向かう力、 人間性	備考
1 定期考査	○	○		
2 提出物	○		○	
3 授業態度	○	○	○	
4 出席状況			○	
5				
6 資格・検定				
観点別割合	50 %	20 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

- 体育は、実技を通しての総合評価です。運動することだけでなく、実施する種目道具の準備や片付け、仲間と切磋琢磨して運動する姿勢や態度等を総合的に判断して算出します。学年末の成績は、各学期の平均から算出します。体育の授業にまず出席をすることと安心・安全に運動に取り組めるよう、日頃の学校生活を頑張ってください。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実技	
1 学期	4		体育大会への取り組み 体づくり運動	基本的な体の動かし方を身に付けることができる。
	5		・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 体づくり運動 スポーツテスト	仲間とペアや集団を作り、楽しく体を動かすことができる。 集団行動の隊列づくりを行うことができる。 自己の今の現状の体力を知り、自己に合った体力向上の方法を理解することができる。
	6		選択授業 水泳	自分に合った球技を選択し、勝敗を競う楽しさや喜びを深く味わおうとする。 自己に適した泳法を身に付け、その効率を高めて泳ぐことができる。
	7		水泳	自分に合った球技を選択し、勝敗を競う楽しさや喜びを深く味わおうとする。 自己に適した泳法を身に付け、その効率を高めて泳ぐことができる。
	8			
2 学期	9		選択授業(球技)	技術などの名称や行い方、課題解決の方法などを理解し、 チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする
	10		体づくり運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、 健康の保持増進や体力の向上を図ることができるようにする
	11	体育理論 1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 3 豊かなスポーツライフの設計の仕方		オリンピックがどのように変化してきたのかを説明できる。 技能がどのようなステップを経て上達するかを説明できる。 自分に合ったスポーツライフを設計することができる。
	12		陸上競技(長距離走)	陸上競技の学習に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にしようとすることができる
3 学期	1		陸上競技(長距離走)	記録の向上や競争の楽しさ喜びを深く味わうことができる。
	2			
	3			

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（2・3年生）

教科	英語	科目	【総合選択】総合英語演習	単位数	
学年	3	学科	W	担当者	
教科書	raise 英語総合演習		副教材		

1 学習の目標・・・この科目を学んでどんな力が身につくのか

○まとまった長文を読んだり、聞いたりすることで総合的な英語力を身につけることができます。
○文法項目が「長文」「表現・作文」「リスニング」の各分野に連動することで文法の確実な定着を図るとともに、学習した内容が耳からも定着できるように工夫しています。

2 学習のポイント

○英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」活動すべてを通して、英語を学ぶだけでなく実際に英語を使ってコミュニケーションができるようになることを目指します。積極的に学習に取り組みましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 定期考査	○	○		課題考査、中間考査、期末考査
2 提出物	○		○	問題集冊子、週末課題、長期休暇課題、試験対策プリント
3 授業態度		○	○	積極的な発言、英語によるコミュニケーション
4 実技	○	○		スピーキングテスト、プレゼンテーション
5 小テスト	○			週末課題を範囲にした試験
6 資格・検定				
観点別割合	50 %	30 %	20 %	

4 担当者からのメッセージ

英文法の説明以外は、なるべく英語で授業をしようと考えています。分からないときはゆっくりと授業をすすめようと思うのですぐに質問してください。英語での発言を評価するので、間違いを恐れずどんどん英語で話してください。

5 学習計画

学期	月	学習單元	学習の到達目標
1 学期	4	Lesson 1 文の種類① 「アメリカのご近所事情」	基本時制を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	5	Lesson 2 文の種類② 「hotとcoldについてのなぞかけ」 Lesson 3 文型① 「コカ・コーラ秘話」	疑問文を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 第1・2文型を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	6		
	7	Lesson 4 文型② 「スミスさんの病」 Lesson 5 時制① 「石を投げるな」	第3・4・5文型を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 過去形・未来形を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
2 学期	8		
	9	Lesson 6 時制②「あなたの声の聞こえ方」 Lesson 7 助動詞①「紙の家」 Lesson 8 助動詞② 「ポリビアにある風変わりなホテル」	現在完了形を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 助動詞can・mayを理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 助動詞must・have to・shouldを理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	10	Lesson 9 受動態 「長さの単位」 Lesson 10 不定詞① 「洞窟とイヌと少年たち」	基本的な受動態を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 不定詞の名詞用法・形容詞用法・副詞用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	11	Lesson 11 不定詞② 「あいさつとは何か」 Lesson 12 動名詞 「記憶力」	S+V+O+to不定詞及び、疑問詞+to不定詞を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 動名詞の基本的用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
	12	Lesson 13 分詞 「旅先で得るもの」 Lesson 14 比較 「ウッドさんと鳥」	分詞の修飾について理解し、それを用いてコミュニケーションができる。 比較級・最上級の用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
		Lesson 15 関係代名詞 「ある生き物たちの驚異的な能力」	関係代名詞の用法を理解し、それを用いてコミュニケーションができる。
3 学期	1		
	2		
	3		

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	農業	科目	生物活用	単位数	2
学年	3	学科	W	担当者	青木
教科書	実教出版 生物活用		副教材	配付プリント	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

○自分の暮らしに植物を取り入れる事で、より豊かな生活をデザインすることができる。
○みんなで協力して実習に取り組む事で、コミュニケーション能力の高まりやメンバーのいいところに気づくことができる観察眼が身につく。

2 学習のポイント

○実習前の説明をちゃんとメモを取りながら聞く！→知識と技術が揃うことで、いざという時に発揮できる力になります。
○生きる資本は身体！→月曜①②限目ですので、前日はちゃんと身体を休める&朝食はちゃんと食べることで、実習に臨む準備をしてください。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	学びに向かう力、 人間性	備考
1 定期考査	○	○	○	期末考査・学年末考査
2 提出物	○	○	○	ファイル・配付プリント等
3 授業態度	○	○	○	忘れ物チェック・実習中の態度等
4 作品	○	○	○	リース・フラワーアレンジ
観点別割合	40 %	40 %	20 %	

4 担当者からのメッセージ

普段、座学中心の授業を受けている皆さん！週に1度は阿蘇の大自然を満喫しながら、みんなで汗をかき、美味しい野菜を育てたり、きれいな花をより美しく魅せたりしてみませんか？みんなで楽しく実習しながら、卒業後の生活の質の向上にもつなげることができるスキルを一緒に身につけましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実習	
1 学期	4	【生物活用とは】	【野菜を育てよう①】	実習とは何かを理解できる。
	5	野菜の基本的な管理 生活の質の向上(QOL) 花の基本的な管理	露地で育てる夏野菜 ミニトマト(鉢植え) ピーマン・ナス・オクラ・ピーナッツ等 【花を育てよう①】	実習内容を理解し、他者と協力して取り組むことができる。 基本的な野菜栽培について理解し、実践することができる。 なぜ生活の質の向上がいわれてるのか考え、自分の考えをまとめ発表することができる。 基本的な花栽培について理解し、実践することができる。
	6	観葉植物の基本的な管理	【観葉植物を育てよう①】 ポトス・シェフレラ・多肉植物 多肉植物の栄養繁殖	観葉植物の栽培方法について理解し、ハイドロカルチャーで実際に育てることができる。
	7	※現場実習あり※		
2 学期	8	秋野菜の特徴 フラワーアレンジメント 門松と日本文化	【野菜を育てよう②】	実習内容を理解し、他者と協力して取り組むことができる。
	9		露地で育てる秋野菜	基本的な野菜栽培について理解し、実践することができる。
	10		ハウレンソウ(プランター) タイコン・ハクサイ・フロッコリー等	季節によって栽培される野菜が異なる理由を理解できる。 身近な地域資源を発見し、地域が取り組んでいるPR方法について調べ、まとめることができる。
	11		【観葉植物を育てよう②】 観葉植物の管理	ハイドロカルチャーで観葉植物を育て、適切な管理を選択し、実践することができる。
	12		【その他】 キッチンリース・フラワーアレンジ等 門松づくり	フラワーアレンジメントの基礎について理解することができる。 植物を生活に取り入れ、その質の向上を図ることができる。 花や材料を使って、自分がイメージするリースやアレンジメントを作成し、そのテーマやこだわりについて他者に伝えることができる。
3 学期	1	【1年間のまとめ】 卒業後の生活をどう彩るのか 美味しい野菜の選び方	観葉植物の管理	これまでの学びをまとめ、感想を他者に伝えることができる。 美味しい野菜の選び方についてまとめ、卒業後の生活に活かすことができる。 観葉植物の管理ができる。
	2			
	3			

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（3年生）

教科	芸術	科目	器楽Ⅱ	単位数	2
学年	3	学科	社会福祉科保育類型	担当者	由布 雅子
教科書	HANON（全音楽譜出版社）		副教材	なし	

1 学習の目標…この科目を学んでどんな力が身につくのか

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 学習のポイント

音楽的知識や技術は学習（練習）すれば身につきます。思考力・表現力・判断力はこれまでの人生で培ってきた様々な経験を活かす事が重要です。以上のことを踏まえ、主体的に、そして自信を持って授業に臨んでください。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 実技試験	○	○		
2 提出物	○	○	○	小テストも含みます
3 授業態度			○	
4				
5				
6				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

音楽に正解や間違いはありません。自信を持って自己表現を楽しみましょう。

5 学習計画

学期	月	学習单元	学習の到達目標
1 学期	4	・ピアノ実技	・応用的な指使いの習得する。 ・HANONを習得する。 ・コード伴奏法を様々なパターンで習得する。 ・保育向け楽曲を10曲両手で弾けるようにする。 ・♯、♭、ひとつずつの楽曲は初見で演奏できるようにする。
	5		
	6		
	7		
	8		
2 学期	9	・バイオリン実技	・バイオリンの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して演奏する。 ・音色, リズム, 旋律, 強弱など, 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し, 表現を工夫して演奏する。
	10	・ピアノ実技	・自由曲を選曲する。
	11	・三線実技	・三線の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して演奏する。 ・音色, リズム, 旋律, 強弱など, 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解し, 表現を工夫して演奏する。
	12	・ピアノ実技	・自由曲2曲を仕上げ、コンサート形式で発表を行う。
	1		
3 学期	2		
	3		

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	家庭	科 目	課題研究	単位数	2
学 年	3	学 科	W	担当者	水上・角
教科書	副教材				

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。
- 生活産業の各分野に関する課題を設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。
- 問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 学習のポイント

- 1つの大きな年間テーマを決め、そのことについて、実際に調査・研究・実験・作品製作などを行う。
自分自身が興味のあることをテーマに設定すること。
- 最後に学習成果を発表する機会を設ける。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査				なし
2 提出物	○	○		計画書、レポートの提出
3 授業態度	○	○	○	製作に取り組む姿勢・出席状況
4 資格・検定	○	○	○	色彩検定や家庭科被服製作技術検定等
5				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

主に提出物や作品製作で評価していきます。期限は必ず守ってください。
自分で課題を見つけ、解決していきます。先を見通し計画的に進めましょう。

5 学習計画

学期	月	学習單元		学習の到達目標
		座学	実習	
1 学期	4	○オリエンテーション ○課題研究テーマ設		自分の進路目標に関することや、興味関心があることの中で課題をテーマに決め、解決に向けて活動する
	5		それぞれで調査・研究・実験・作品製作を行う	
	6	保育実習		
	7		それぞれで調査・研究・実験・作品製作を行う	
	8			
2 学期	9	○中間発表		中間報告を行い、自分の振り返りを行う
	10		それぞれで調査・研究・実験・作品製作を行う	
	11		湧穂祭 展示部門の準備	作品の効果的な展示方法を知る
	12	○まとめ・発表		スライドを使ってプレゼンテーションの準備を行う
3 学期	1	○発表会		相手に伝わるプレゼンテーションの方法を習得する
	2			
	3			

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	家庭	科目	生活産業情報	単位数	2
学 年	3	学 科	W	担当者	水上・山邊
教科書	生活産業情報(実教出版株式会社)		副教材	ビジネス文書実務検定模擬試験問題集	

1 学習の目標・・・この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 社会における情報化の進展とそれによる問題点を理解し、セフルを身につける。
- コンピュータに関する基礎的な知識・技術を身につけ、適切な情報の収集・分析・処理・発信方法を習得する。

2 学習のポイント

- ビジネス文書実務検定を受検する。タイピングの練習や過去問を解くなど、合格に向けて努力する。
- 様々な事例をもとに学んでいく。「自分が体験したらどのように行動するか」という視点をもって取り組む。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○	○		期末考査、学年末考査
2 提出物	○		○	授業中の課題、学期末のファイル提出
3 授業態度		○	○	教材の準備
4 資格・検定	○			ビジネス文書実務検定
観点別割合	60 %	20 %	20 %	

4 担当者からのメッセージ

この科目では実生活に役立つ知識や技術を学びます。毎時間の授業に集中して取り組みましょう。ビジネス文書実務検定に向けた対策も行います。資格取得に向けて頑張りましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	・オリエンテーション	・この科目の学習内容やそれを学ぶ目的・意義などを、理解することができる。
	5	・第1章 情報化の進展と生活産業 1節 情報化の進展と社会 ・ビジネス文書の基礎(実技)	・情報化の進展に伴い、生活や産業がどのように変化してきたか理解することができる。 ・速く、正確なタイピングができる。
	6	・ビジネス文書実務検定の筆記・過去問(実技)	・速度部門、ビジネス文書部門ともに過去問を利用しながら検定合格を目指す。
	7	・ビジネス文書実務検定に挑戦! 2節 生活産業における情報化の進展	・情報化の進展によって生じている問題点を理解することができる。また、衣食住や保育、福祉などの生活産業において、どのように利用されているのか知り、まとめることができる。
2 学期	8	・第2章 情報モラルとセキュリティ 1節 ネットワーク社会の危険性	・ネットワーク社会におけるサイバー犯罪や問題点について事例をもとに考え、意見を述べることができる。
	9	2節 情報モラルとマナー 3節 セキュリティ管理 ・第6章 情報の処理・分析・発信	・ネットワークを利用する際に注意するモラルやマナーについて理解できる。
	10	2節 表計算ソフトの利用	・表計算ソフトについて理解し、基本的な操作をすることができる。
	11	4節 プレゼンテーションソフトの利用	・プレゼンテーションソフトの概要を知り、操作方法を身につけ、分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。
	12	・第7章 様々な分野における利用 1節 食生活関連分野での利用 2節 衣生活関連分野での利用	・食生活、衣生活分野の情報収集・分析・処理・発信の方法について理解し、場面に応じて活用できる。
		3節 住生活関連分野での利用 4節 ヒューマンサービス分野での利用 5節 消費生活分野での利用	・住生活、消費生活分野などの情報収集・分析・処理・発信の方法について理解し、場面に応じて活用できる。
3 学期	1		
	2		
	3		

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	家庭	科 目	子どもの発達と保育	単位数	2
学 年	3	学 科	W	担当者	角
教科書	子どもの発達と保育(教育図書)		副教材	ワークノート、配布プリント	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得できる。
- 子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度が身につけられる。

2 学習のポイント

- 自分の意見や考えをしっかりと言えるように学習していきましょう。
- 保育検定・校外実習も頑張りましょう。1時間1時間を大切に臨みましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○	○	○	1学期末考査、2学期末考査、学年末考査
2 提出物	○	○	○	プリントの提出・作品の製作など
3 授業態度			○	授業中の態度、忘れ物など
4 実習	○	○	○	校外実習
5				
6				
観点別割合	30 %	30 %	40 %	

4 担当者からのメッセージ

定期考査だけではなく、授業態度・提出物・取り組み状況・技術面など総合的に評価します。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実習	
1 学期	4	オリエンテーション		
	5	保育実習準備	おもちゃ作り 絵本の読み聞かせ練習	保育実習の準備を整える
	6	(保育実習)	(保育実習)	実習を通して、幼児と積極的に関わり、保育についての技術や知識を深める。
	7	(保育実習) 保育実習振り返り 第3章 子どもの生活 3 子どもの衣服	(保育実習) 子供服製作	実習を通して学んできたことを共有する 簡単な子供服を製作する
	8		夏休みの課題	
2 学期	9	第3章 子どもの生活 5 子どもの健康管理	子供服製作	子供服製作 完成 子どもの健康管理について理解する。
	10	パネル準備 第3章 子どもの生活 子どもの健康と生活 子どもの健康管理		湧穂祭での作品展示 子どもの生活と健康について自分の考えをまとめることができる。
	11	第4章 子どもの保育 保育の方法・環境	おむつがえ 着替えなど	子どもの着替えなど、保育する上で必要な技術が習得できる
	12	子どもの福祉と子育て支援	調べ学習・ポスターツアー	保育を取り巻く環境や課題について理解することができる
3 学期	1	1年間の振り返り		2年間の学びを振り返る
	2			
	3			

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	家庭	科 目	子ども文化	単位数	2
学 年	3	学 科	W	担当者	角
教科書	高等学校用 子ども文化 (教育図書株式会社)		副教材	なし	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を学ぶ。
○子どもの生活の中の文化活動について理論の学習にとどまらず、実習をととして応用発展しながら学ぶ。

2 学習のポイント

- 子どもにとっての遊びの意義は何かを考えたり、絵本の読み聞かせをしたり、子ども文化に関する施設を調べたりします。子どものよき理解者・支援者になることを目指します。
○実際に遊びの体験したり、おもちゃの作成をしますので自分の小さい頃を思い出しながら取り組みましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	学びに向かう力、 人間性	備考
1 定期考査	○	○	○	期末考査・学年末考査
2 提出物		○	○	授業のプリントの記入、作品製作等
3 授業態度		○	○	授業中の態度、忘れ物等
4 実習	○	○	○	保育実習に向けた取り組み態度、実習中の評価等
5 出席状況			○	授業への参加状況
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

座学だけでなく実際におもちゃを作ったり遊んだりすることもあります。自分の小さい頃を思い出しながら、子どもの遊びについて一緒に学びましょう。また学んだことは保育園や幼稚園での実習に活かしていきます。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実習	
1 学期	4	第2章 子どもと遊び ①遊びと発達 ②遊びの現状		・新聞やインターネットなどで調べ、遊びをとりまく現状について理解できる ・現代の子どもを取り巻く遊びの課題について自分の考えを持つことができる
	5	③遊びと遊具、玩具 ④遊びと伝承	ばたばた絵本製作	・さまざまな遊びや遊具・玩具の特徴を理解し、保育に活用できる ・伝承遊びについて理解できる
	6	第7章 子ども文化実習 ①子どもと関わる前に ②遊びの観察と子供理解	保育実習	・遊びの観察や子どもと実際に関わる際の留意を理解し、実践できる
	7	・保育実習振り返り	保育実習	・保育実習を振り返り、反省点を見つけることができる ・保育実習で学んだことを共有できる
	8			
2 学期	9	第3章 子どもと表現活動 ①子どもの表現活動の面白さ ②造る、描く ③言語表現活動 ④歌う、踊る、演奏する	・ペイプサート製作 ・創作ダンス	・子どもたちが興味を持つようなペイプサートを製作することができる ・リズムに合わせて体を動かすことができる
	10	第4章 子どもと文学 ①語り ②紙芝居 ③絵本	・紙芝居製作 ・読み聞かせ講習会	・子どもが興味関心を持てるような紙芝居を作り、読むことができる
	11	④児童文学 ⑤アニメーション		・児童文学やアニメーションについて理解することができる
	12	第5章 現代の子どもの生活と文化 ①テレビ、キャラクター、ゲーム ②子供と年中行事	・調べ学習 ・ポスターツアー	・テレビ、ゲームの在り方やキャラクターへの理解を深めることができる
3 学期	1	第6章 子ども文化を支える場 ①行政による公的な支え方 ②民間企業による支え方 ③子どものための各種施設		・子どもの文化を支える場の在り方について理解することができる
	2			
	3			

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	家庭	科 目	フードデザイン	単位数	4
学 年	3	学 科	W	担当者	水上
教科書	実教出版「フードデザイン 新訂版」		副教材	配付プリント	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を学ぶ。
- 食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

2 学習のポイント

- 食に興味を持って積極的に授業に参加すること。
- 実習では、ガスや包丁を使うため、安全面や衛生面にも配慮する。
- 実践することで技術が身につくので、学んだことを活かし、家庭でも実践する。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	学びに向かう力、 人間性	備考
1 定期考査	○	○		1学期末考査、2学期末考査、学年末考査
2 提出物	○	○	○	授業のプリントの記入
3 授業態度			○	教材の準備・授業中の態度等
4 実習	○	○	○	実習への取り組み方、技能の上達度
5 出席状況			○	授業への出席状況等
6 資格・検定	○	○	○	食物調理技術検定
観点別割合	30 %	40 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

食に関するあらゆる知識や技術を学びます。生きていく上で大切な食について一緒に学習しましょう。
日常食や行事食の調理実習を行ったり、食物調理技術検定2級に挑戦したりします。個々の技術力向上を目指して頑張りましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実習	
1 学期	4	オリエンテーション 食物調理技術検定2級について	食物調理技術検定2級練習	・食物調理技術検定とは何か、どのような力が必要かを理解できる
	5	食物調理技術検定2級練習	食物調理技術検定2級練習	・お弁当献立の作成 ・お弁当献立の調理 (50分で作る・熱源は一つ使用可)
	6	(保育実習)	(保育実習)	
	7	食物調理技術検定2級練習 3章 食品の特徴・表示・安全 1 食品の特徴と性質	食物調理技術検定2級練習	・お弁当献立を時間内に作り上げることができる
	8		食物調理技術検定2級受検	食物調理技術検定2級に合格する
2 学期	9	1 食品の特徴と性質	調理実習	・それぞれの食品の特徴と調理上の性質を理解する。
	10	2 食品の生産と流通 3 食品の選択と表示 4 食品の衛生と安全	調理実習	・食品の生産・流通の流れを知る ・食品の安全について理解する
	11	5章 料理様式とテーブルコーディネート 1 料理様式と献立	調理実習	・各料理様式を理解し、関心を持つことができる
	12	2 テーブルコーディネート	調理実習「クリスマス料理」 調理実習「正月料理」	・テーブルコーディネートについて理解できる
3 学期	1	1年間のまとめ		・食育の意義を理解し、推進活動に関心を持つことができる
	2			
	3			

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	福祉	科 目	介護福祉基礎	単位数	3
学 年	3	学 科	W	担当者	六嘉 将斗
教科書	実教出版『介護福祉基礎』		副教材	中央法規『見て覚える!国試ナビ』	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

介護福祉士に求められる専門性の中から、介護現場におけるリスク管理や、感染症対策、ストレスマネジメントなどを学びながら、現代に求められる介護福祉士像を考え、介護福祉士としての専門性と意識を身に付けていく。

2 学習のポイント

授業を受けながら、実際に自分が介護現場でどのような行動が求められるのかをイメージしながら学びましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○	○	○	4回実施(①期末、②中間・期末、③期末)
2 提出物		○	○	レポート、課題
3 授業態度			○	授業準備、積極性、協調性
4 演習		○	○	演習活動・グループ活動・発表内容
5 小テスト	○			定期的に実施
6 資格・検定				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

昨年は介護福祉士に求められる基礎的な知識を身に付けてきたと思います。3年次では今まで培った知識や、実習での経験を活かしながら実践を見据えて考えていきたいと思っています。プロの介護福祉士とは何か考えながら学んでいきましょう。

5 学習計画

学期	月	学習单元	学習の到達目標
1 学期	4	介護における安全確保と事故対策 ・ 介護におけるリスクマネジメント	介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解できる。
	5	・ 事故予防対策 ・ 転倒・転落事故 ・ 身体拘束の禁止について ・ 防災対策	実際の介護現場でどのようなリスクがあるのかを学び、具体的な対処を考察し発見することができる。 身体拘束がもたらす影響と必要性について理解できる。 介護施設に求められる防災対策について学び、考えることができる。
	6	○ 1学期期末考査 ○ 施設実習	
	7	感染対策 ・ 感染症の理解 ・ 感染症の予防対策 ・ 介護現場で出会うことの多い感染症	感染症の危険性と発症経路について理解できる。 実際の感染症ガイドラインをもとに実践的な感染症対策を理解し、各感染症の感染経路や症状を理解し対策を考えることができる。
2 学期	8		
	9	介護従事者の健康管理 ・ 健康管理の重要性 ・ 心の健康管理 ・ からだの健康管理	介護従事者の自己管理の重要性と方法について理解できる。 介護とストレスについて考察しメンタルヘルスケアの重要性を理解し腰痛予防などの健康管理について理解できる。
	10	○ 2学期中間考査 ・ 労働安全衛生に関する知識 ・ 家族介護者の健康	労働者としての権利と根拠となる法律を理解できる。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をもとに理解し、適切な介護指導について考えることができる。
	11	介護福祉士国家試験対策 模擬試験 ○ 2学期期末考査	介護福祉基礎で得た知識をもとに介護福祉士の視点を働かせながら、問題を解くことができる。 模擬試験から自分が理解できていない分野を把握し、学び直すことができる。
	12	介護福祉士国家試験対策 模擬試験	介護福祉基礎で得た知識をもとに介護福祉士の視点を働かせながら、問題を解くことができる。 模擬試験から自分が理解できていない分野を把握し、学び直すことができる。
3 学期	1	介護福祉士国家試験対策 模擬試験 学年末考査 介護福祉士国家試験	介護福祉基礎で得た知識をもとに介護福祉士の視点を働かせながら、問題を解くことができる。 模擬試験から自分が理解できていない分野を把握し、学び直すことができる。
	2		
	3		

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス

教科名	福祉	科目	生活支援技術	単位数	5
学 年	3	学 科	W	担当者	織田・三井・渡邊
教科書	実教出版『生活支援技術』		副教材	中央法規『生活支援技術Ⅱ』	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- さまざまな介護場面の中で、利用者を尊重した適切かつ安全な支援を実践する能力と態度を習得する。
- これまでの生活支援技術・医療的ケアで学んだ知識を活かし、国家試験の問題に取り組む。

2 学習のポイント

- これまで習ったことを実技・座学の両方で振り返りながらさらに学びを深めていきます。
- 各授業担当で国家試験対策を実施します。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	備考
1 定期考査	○	○	○	「生活支援技術」「医療的ケア」どちらも実施
2 提出物	○		○	授業レポート、課題
3 授業態度		○	○	授業準備（忘れ物がないか）、発言、積極性、協力性
4 実技テスト	○	○	○	「生活支援技術」「医療的ケア」どちらも実施
5				
6				
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

月曜3・4限の「生活支援技術」は織田が担当します。介護実習前までは実技を行います。介護実習後は国家試験対策の座学を実施します。火曜4限・木曜4限の「生活支援技術」は三井が担当します。国家試験対策で国家試験対策の座学をします。金曜5・6限の「生活支援技術」は医療的ケアの分野で渡邊が担当します。今までの生活支援技術で学んだ知識や技術を活かして取り組みましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元		学習の到達目標
		座学	実習	
1学期	4	「認知症の基礎的理解」 認知症とは何か 認知症の人の心理 認知症の人の病気の特徴	●医療的ケアの理解 ●事例問題	●1,2年の時に学んだ学習内容をきちんと振り返ることができる。 ●事例から適切に必要な情報を読み取り、適切な支援は何かを考察することができる。 ・認知症とは何か、これまでの学習内容を振り返ることができる。 ・事例を用いて認知症の人の心理を理解することができる。 ・認知症の原因となる病気の症状、4つの疾患の違いを理解することができる。
	5	「認知症の症状・診断・治療・予防」 認知症による症状 認知症の診断、治療 認知症の予防		●自立に向けた生活支援の知識を身につけている。 ・認知症による中核症状と周辺症状を理解することができる。 ・認知症の診断と治療について理解することができる。 ・BPSDに似た症状について理解することができる。 ・認知症の治療薬、予防薬について理解することができる。
	6	期末考査 施設実習		
	7	「認知症ケアの実践」 認知症を取り巻く状況、環境づくり		・介護保険と認知症対策など我が国の認知症介護の現状について理解することができる。
2学期	8	認知症ケアの理念と視点	医療的ケアの理解	・認知症介護の理念を理解することができる。
	9	認知症の人とのコミュニケーション 認知症の人への様々なアプローチ 「認知症の人の地域生活支援」 認知症に関する行政の方針と施策		・認知症の人とのコミュニケーションの方法、さまざまな場面でのアプローチの仕方について理解する。 ・認知症の方への行政の方針や地域支援体制について正しく理解することができる。
	10	中間考査 家族、介護者への支援 多職種連携と協働		介護現場での実際を把握し、介護者への支援について理解することができる。 認知症の人のケアについて、多職種との連携を理解することができる。
	11	介護福祉士国家試験対策 模擬試験 期末考査		・問題や解答を振り返り、自分の苦手なところを知ることができる。 ・これまでの知識を生かし、問題を解くことができる。 ・模擬試験で6割以上の点数をとることができる。 ・模擬試験後の自己分析を行い、次の模試に向けて目標を立てることができる。

2 学 期	1 2	介護福祉士国家試験対策 模擬試験		・問題や解答を振り返り、自分の苦手なところを知ることができる。 ・問題や解答を振り返り、応用力を身につけることができる。 ・模擬試験で7割以上の点数をとることができる。 ・模擬試験後の自己分析を行い、次の模試に向けて目標を立てることができる。
	1	介護福祉士国家試験対策 模擬試験 学年末考査		・問題や解答を振り返り、自分の苦手なところを知ることができる。 ・模擬試験の結果について自己分析することができる。 ・模擬試験で7割以上の点数をとることができる。 ・介護福祉士として必要な知識・技術を確実に習得することができる。
3 学 期	2			
	3			

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（3年生）

教科名	福祉	科目	介護過程	単位数	4
学年	3	学科	W	担当者	山邊愛理・織田彩加
教科書	介護過程（実教出版）		副教材		

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- ①人としての尊厳の保持と自立支援の観点から、介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を育てる。
- ②介護福祉士国家試験の「社会の理解」「生活支援技術」「介護過程」について、正答率が8割以上とれるようにする。

2 学習のポイント

実習での介護計画の立案、介護過程の展開ができるようになるために、事例をもとに学習していきます。実習後は、介護実習報告会に向けて、実習での学んだことをパワーポイントにまとめ、介護過程の展開について学びを深化させていきます。並行して、国家試験に向けての学習もしていきます。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○			定期考査【1学期期末・2学期期末・学年末】
2 提出物			○	授業ファイル
3 授業態度	○	○		授業中の態度
4 実習記録物	○	○	○	実習日誌・フェイスシート・アセスメントシート・介護過程の記録
5 資格・検定	○		○	模擬試験結果・やり直しシート
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

3年生は学びの集大成であり、最後の介護実習になります。これまで学んできた、福祉の知識や技術をもとに「介護過程」を展開し、専門職としてのスキルを磨いていきましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	第1編 介護過程の意義と目的 ●情報収集の意義 ○介護福祉士国家試験対策	●質の高い情報収集の方法を行うために、コミュニケーションスキルを上達させる ●集めた情報から具体的な生活課題を見出す力を身に着ける ○住環境○シンボルマーク
	5	第2編 介護過程の展開 ●フェイスシート・アセスメントシートの記入 ●実習目標の立て方 ●介護計画の立案・実施・評価の方法	●守秘義務の観点から、実習記録物の取り扱いについて理解する ●事例をもとにフェイスシート・アセスメントシートの記入、介護計画の立案ができる ○住宅改修 ○住宅改修(購入・貸与)
	6	【介護実習】 	●介護実習をとおして、介護過程の一連の流れを経験し、根拠に基づいた介護の実施ができる
	7	●実習振り返り	●実習を振り返り、学んだことをまとめる ○栄養素○調理○自助具季節行事 ○個人・世帯・家族・地域社会・行政組織
	8		
2 学期	9	●実習報告会に向けて ・実習報告集の作成 ・発表原稿、パワーポイントの作成 	●実習報告会に向けて、準備を進めることができる ○人間の尊厳と人権・権利擁護・日常生活自立支援事業・成年後見制度・高齢者虐待・児童虐待・障害者虐待○社会保障制度 ○洗濯
	10		○医療保険○年金保険○雇用保険 ○労働者災害補償保険 ○終末期の介護○家計収支
	11	●校内実習報告会 ●校外実習報告会	○介護保険 ○社会福祉関連法 ○生活保護・社会手当・保健制度 ●校内実習報告会で相互評価をおこない、代表を選出する
	12		●校内実習報告会で選ばれた代表者が発表をする ・実習指導者(施設職員) ・1・2年生 ○高齢者の住まいに関すること
			○障害者に関する法律(障害者基本法・障害者総合支援法・障害者自立支援法・障害者差別解消法)
3 学期	1	○第35回介護福祉士国家試験 	
	2		
	3		

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（3年生）

教科名	福祉	科 目	介護総合演習	単位数	1
学 年	3	学 科	W	担当者	社会福祉科職員
教科書	介護総合演習・介護実習（実教出版）		副教材		

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

介護演習や事例研究などの学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 学習のポイント

3年生では23日間の長期にわたる介護実習が待っています。3年生の介護実習でのねらいは、「介護過程の実践」と「介護技術の習得」です。そのために、介護総合演習では様々な事例に触れながら、利用者様の介護過程について計画を立案していきましょう。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 定期考査	○		○	定期考査（1学期期末考査）
2 提出物		○	○	施設提出書類等
3 授業態度	○	○		授業中の態度
4 実習記録簿	○	○	○	介護実習記録簿ファイルチェック
5 実習中の態度	○	○	○	実習中の態度及び施設評価
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

介護過程は奥深く、利用者様にとって重要なものとなってきます。みなさんが実習に臨む際に、受け持ちの利用者様により良い介護過程の立案・展開ができるように、アセスメントから計画の立案・実施・見直し等について深く学んでいきましょう。

5 学習計画

学期	月	学習単元	学習の到達目標
1 学期	4	○施設概要調べ ○自己紹介シート作成	○実習先の施設形態を理解できる
	5	○事例研究 ○オリエンテーション準備 ○オリエンテーション実施 ○実習記録簿の作成	○事例からフェイスシート・アセスメントシートの記入ができるようになる ○オリエンテーションの際に必要な情報を聞き取ることができる ○実習日誌の書き方を理解できる
	6	【介護実習】 6月13日～7月15日(23日間)	○日々の目標を立て実践することができる ○実習記録物の記入ができる ○介護過程の実践ができる
	7	介護福祉士国家試験対策開始(介護過程) ○施設お礼状作成 ○実習振り返り	○実習を振り返り、介護過程・介護技術についてまとめることができる
2 学期	8		
	9	○実習報告会準備	○実習で実践した介護計画をもとに、個別的及び集団的な援助について理解する ○パワーポイントを活用して、事例研究をまとめることができる
	10		
	11	○校内介護実習報告会	○これまでの3年間で学んできたことを踏まえて、3年次実習の実習報告をすることができる
	12	○校外介護実習報告会	○在校生や施設職員の方々に、実習報告をすることができる
3 学期	1	○第35回介護福祉士国家試験	
	2		
	3		

令和4年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 シラバス（3年生）

教科名	福祉	科 目	介護実習	単位数	4
学 年	3	学 科	W	担当者	社会福祉科職員
教科書	介護総合演習・介護実習（中央法規）		副教材		

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

23日間の介護実習を通して、介護過程を実践できる知識と技術を身に付ける。受け持ちのサービス利用者の理解を柱として、アセスメント⇒課題の明確化⇒計画⇒実施⇒評価を実践的に行い、自立生活支援を提供する。

2 学習のポイント

利用者理解と信頼関係の構築、職員の方への報告・連絡・相談等、1・2年で培った実習生としての知識や技術、態度の総まとめとして介護過程の展開を実施する。受け持ちとなる利用者や家族の理解があつてこそ実践できることを忘れず、職員の方の指示を仰ぎながら、利用者の状況を記録し実施する。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性	備考
1 提出物		○	○	実習日誌・チェック表・反省会記録等
2 巡回評価	○	○	○	巡回時の実習態度や身なり、持参物の確認
3 施設評価	○	○	○	介護実習先の指導者からの評価
4 出席状況		○	○	
観点別割合	20 %	40 %	40 %	

4 担当者からのメッセージ

評価は実習日誌等の提出物、学校の教員による巡回評価、実習施設の指導者からの評価、介護過程の展開、出席状況において行います。2日間の帰校日を設けていますので、計画表に基づいて、介護過程を実践しましょう。介護実習は欠席が認められませんので、やむを得ない場合は土日等に補習実習を行います。

5 学習計画

学期	月	学習单元	学習の到達目標
		実習	
1 学期	4		
	5		
	6	6月13日(月)～7月15日(金)【23日間】 実習先:介護老人福祉施設・介護老人保健施設 ・サービス利用者の心身や生活状況を観察し記録する。 ・サービス利用者の解決すべき課題を明確化する。 ・解決のために、サービス利用者の了解が得られる計画を立てる	・サービス利用者を観察し、正確に理解することができる ・科学的な根拠に基づいて、サービス利用者が有している課題を明確化することができる ・科学的根拠に基づいて、解決に向かう自立生活支援を創造的に計画し、提案することができる ・サービス利用者と信頼関係を築き、介護過程を実践できる ・客観的な視点で自らの介護過程を評価できる。指導者や多職種からの助言を介護過程に活かすことができる
	7	・職員に報告・連絡・相談を行う ・サービス利用者と介護過程を実施する ・サービス利用者と実施した内容を評価する ・サービス利用者の生活を支える介護技術を習得する ・多職種連携やチームケアを介護過程の実践に取り入れる	
	8		
	9		
2 学期	10		
	11		
	12		
3 学期	1		
	2		
	3		

令和4年度 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎 シラバス

教科名	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	4
学年	3	学科	W	担当者	梅井 美保
教科書	こころとからだの理解(実教出版)		副教材	介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)	

1 学習の目標…この教科を学んでどんな力が身につくのか

- 人間のこころやからだのしくみの知識をもとに、疾病や障害について理解することができる。
- 介護現場や地域において、認知症や障害のある方に対する自立支援を考え提供できる。
- 日々の生活において活用することができ、将来の専門職に求められる力を身につける。

2 学習のポイント

- 1・2年次の内容を復習し、障害や疾病について詳しく学習する。
- 国家試験対策問題に取り組み、自己分析で苦手な内容を知り、積極的に学習する。
- 対策問題作成や解答の説明が他者にわかるようにでき、互いに高め合う学習に取り組む。

3 評価の基準および観点別割合

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	学びに向かう力、 人間性	備考
1 定期考査	○	○		期末考査(年4回)
2 提出物		○	○	レポート、課題、授業記録プリント、自学ノート、自己評価
3 授業態度		○	○	授業準備、マナー、発言、積極性、協調性、発表態度
4 小テスト	○			定期毎に実施予定
5 模擬試験	○			国家試験模擬試験(10回)
観点別割合	40 %	30 %	30 %	

4 担当者からのメッセージ

国家試験科目である「こころとからだのしくみ」「障害者の理解」を取り扱います。介護福祉士国家試験合格を目指し、一緒に頑張りましょう。受験生としての心構えを持ち、粘り強く、様々な誘惑に負けず、毎日コツコツと学習を重ねること。受験は団体戦です。クラスみんなで協力して、互いに教え合ったりしながら、1つの目標に向かって取り組みましょう。

5 学習計画

学期	月	学習單元	学習の到達目標
1 学期	4	障害の概念 国際生活機能分類 障害者基本法の概要	障害に関する各法律についての定義を理解することができる。
	5	福祉の基本理念(ノーマライ、国際障害者年 リハビリ、エンパワメント) 《身体障害》身体障害者福祉法、手帳、総数 ①視覚障害 ②聴覚障害・言語障害	ノーマライゼーション等の基本理念を理解することができる。 身体障害の原因、種類、実態について理解することができる。 視覚、聴覚、言語障害の原因や具体的な疾病について理解することができる。
	6	期末考査 【介護実習】	
	7	【介護実習】 ③肢体不自由(脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管 障害)	肢体不自由の原因や具体的な疾病について理解することができる。
2 学期	8		
	9	④内部障害 心臓・腎臓・小腸・肝臓・呼吸器機能障害 膀胱または直腸機能障害、免疫機能障害	内部障害の原因や具体的な疾病について理解することができる。
	10	中間考査 《知的障害》知的機能の程度、手帳、ダウン症等 《精神障害》精神保健福祉法、主因分類 統合失調症、鬱病、精神病等	障がいに対する生活支援のあり方について考えることができる。 知的障害の原因、生活上の困難について考えることができる。 精神障害の要因、疾患、症状について理解することができる。 基本的な内容を理解することができる。
	11	《発達障害》発達障害者支援法、学習障害 自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害 《高次脳機能障害》 期末考査	発達障害や高次脳機能障害について考えることができる。 問題や解答の振り返りを行い、自分の苦手な内容を知ることができる。 介護福祉士模擬試験で6割以上の点数を取ることができる。
	12	《難病》 障害の受容・心理 障害と地域生活支援、家族への支援	難病、障害の受容、支援について考えることができる。 模試問題や解答の振り返りを行い、応用力を付けることができる。 介護福祉士模擬試験で6～7割以上の点数を取ることができる。
3 学期	1	介護福祉士国家試験対策 学年末考査	模試受験結果について自己分析をすることができる。 介護福祉士模擬試験で7割以上の点数を取ることができる。 介護福祉士として必要な知識や技術を確実に習得することができる。
	2		
	3		